

# 令和5年度 新座市立第二中学校 経営方針

## I 学校教育目標等

### 1 校訓・学校教育目標

校訓 まごころ

「明朗 向上 自主・自立」

キャッチフレーズ 明るい挨拶 光る汗 きれいな学校 きれいな心

### 2 目指す学校像・・・自信と誇りにあふれる学校

○心のこもったあいさつ、返事、言葉を大切にする生徒を育てる学校

○安全で、清掃が行き届いたきれいな学校

○わかる喜びがある授業により自ら学ぶ生徒を育てる学校

○地域、保護者に信頼される学校

### 3 目指す教師像・・・「教育は人なり」 優れた資質能力を備えた魅力ある教師

○信頼される教師

・豊かな人間性、いじめを許さない強い姿勢、率先垂範

○教育の専門家としての教師

・わかる授業を実践するため、研修に努める教師

☆学校教育は、人間の成長に携われる魅力的な仕事、今日の教育が生徒の明日をつくり、社会の未来をつくる。

★教職員行動モットー「誠実・的確・迅速」

### 4 目指す生徒像・・・凡事徹底

○礼儀正しく明朗で思いやりのある生徒

・心のこもったあいさつ、返事、場に応じた適切な言葉遣いができる生徒

○自ら学ぶ向上心のある生徒

・基礎基本を確実に身につけ、自ら学び続けることのできる生徒

○豊かな心をもつ生徒

・教科外活動にも積極的に参加し、多くの人とふれあうことで豊かな心を養い、自主性、社会性、道徳性を身につけた生徒

## II 今年度の指導の最重点

一人一人の確かな成長を実現するため、ICT機器を積極的に活用するなど教育活動の効率化、質の向上を目指す。

### 1 個に応じた学力の向上（授業改善の推進）

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得（個別最適化の学習）

① 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるため繰り返しの学習の徹底

A I 型教材の有効活用（個別最適化）

② I C T機器の効果的な活用による授業改善の実践（3つの柱）

研修部による研究の推進（主体的に学習に取り組む生徒の育成）

- ・キュビナの効果的活用
- ・ロイロノートによる授業改善
- ・グーグルクラスルームによる授業改善

③各学力学習状況調査結果の分析による課題の明確化と改善策の推進

④長期休業中の補習、定期テスト前の質問教室の実施

⑤家庭学習の充実（校区内小学校との連携）、家庭学習の手引きの活用

⑥定期テスト前の10日間チャレンジの確実な実施

⑦水曜日課、放課後に個に応じた学習の支援（ジャンプ・アップタイムの活用）

⑧業前学習の徹底（朝読書、キュビナ、touch typingによる個別最適化学習の推進）

(2) 思考力・判断力・表現力の育成

①校内研究の共有化・活性化の推進（I C T機器の積極的な活用）

②学力向上プランに基づいた授業改善の推進。全国・県学力学習状況調査の分析による課題の明確化と改善策の推進

③校内研究の成果による学力向上プランの更なる改善、授業改善の推進

④研究主題「主体的に取り組む生徒の育成」の推進

本発表に向けた取組（成果と課題の確認）

⑤自ら課題を見つけ、主体的に判断し運動に取り組む生徒の育成

⑥言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

⑦国際理解教育の推進

- ・英語教育の推進

⑧主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善の推進

- ・主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

- ・対話的な学び

生徒の協働、教職員や地域の人との対話など先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。

- ・深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方、考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする。

2 I C T機器の積極的な活用（個別最適化を図る）

これまで実践してきた本校の教育活動を新たな視点やコロナ禍の現状を踏まえ見直し効率化を図る。I C T教育部を中心にI C T機器を積極的に活用し、教育の質の向上と学校運営の改善を推進する。

(1) I C Tの効果的な活用によるわかる授業の実践（3つの柱）再掲

可動式端末(キュビナ)により基礎学力を向上（個別最適化の学習）

(2) 可動式端末による授業改善の推進

ロイロノートによる授業改善、グーグルクラスルームによる授業改善

3 豊かな心と健やかな体の育成

(1) 豊かな心の育成

道徳推進教師を中心とした道徳教育の推進、充実。学校の教育活動全体を通じて「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」。

①「特別の教科道徳」の時間を充実させ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成

- ・道徳用教材を整備・充実・活用
- ・道徳の授業の指導者ローテーションによる指導力向上

②心の教育の充実

- ・「あいさつロード」の取組の推進  
ふれあい連絡協議会、地域、PTA、生徒会によるあいさつ運動
- ・読書活動・図書館教育の充実、「おはなしの雫」の実施
- ・規律ある態度の向上
- ・生徒会活動の充実

③情報モラル教育の推進「責任を持った正しい行動力、望ましい態度を身に付けた生徒の育成」

- ・情報モラル全体計画の確実な実施  
各教科における情報モラル指導モデルカリキュラムの推進
- ・情報モラルチェックシートを各学期に実施し評価する。

(2) 教育相談の充実、いじめ防止、不登校生徒の削減

心の教育を充実し不登校生徒に寄り添った支援の充実、取組の結果として不登校生徒の割合を2パーセント未満にする。

- ①いじめの早期発見・早期対応の取り組みの推進
- ②不登校生徒の授業参加（オンライン授業の実施）
- ③中一ギャップ防止、いじめ防止等の教職員研修の充実
- ④不登校生徒等の情報共有の徹底と改善に向けての具体策の実施
- ⑤他の関係機関との連携推進
- ⑥教育相談部会の充実
- ⑦相談室登校生徒の学習支援（第2校時から第5校時まで各教科の授業）
- ⑧不登校生徒の学習支援（ICT機器の積極的な活用）

(3) 体力の課題解決と健康教育の推進

①体力課題解決に向けた取組の充実、体力向上と自他の心身の健康保持増進

- ・体力の向上
- ・生徒の体力の実態に基づく重点的継続的な指導
- ・体育的行事の充実

②学校保健の組織的な推進

- ・「健康の記録」の積極的活用
- ・歯科指導・薬物乱用防止教育の推進
- ・薬物乱用防止教室の実施、性教育講演会の実施、保健指導の充実

③学校安全の組織的な推進

- ・自己の安全を守る指導、避難訓練、交通安全指導
- ・学校や家庭・地域の実態に即した指導計画と組織的な安全教育の推進
- ・生活安全、交通安全、災害安全指導の徹底
- ・安全点検（定期点検、臨時点検）の確実な実施と迅速な対応

#### ④学校における食育の推進

- ・食に関する正しい知識と望ましい食習慣の推進
- ・給食の時間等を通して自らの健康管理ができる資質、能力の育成

### 4 保護者・地域との連携推進

- (1) コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の充実  
コミュニティ・スクールによる教育課程の改善
- (2) 保護者・地域との連携による情報モラル教育  
年間計画に基づく、発達の段階に応じた情報モラル教育の必要性や具体的な指導の推進
- (3) 学校情報の積極的発信 各種たより、ホームページの充実
- (4) 地域コーディネーターを中心としたPTA、OB・OG会、ふれあい地域連絡協議会、地域、学校応援団との連携推進  
PTA活動、二中フェスタ、ふれあい地域連絡協議会講演会、読み聞かせ、おはなしの雫、朝のあいさつ運動、緑化活動、下校パトロール、各講演会
- (5) 学校自己評価及び学校関係者評価に基づいた教育課程の改善
- (6) 地域の教育資源を有効活用した教育活動の推進
- (7) 幼稚園、小学校との連携  
吹奏楽部合同練習、合唱交流、中学生ピアサポーター、部活動体験、保育交流、小学校陸上大会の支援

## III 具体的な方策

### 1 各教科の指導の充実（再掲）

- (1) 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善
- (2) 思考力、判断力、表現力を育む研究の推進  
・研究主題の成果による学力向上プランの更なる改善、授業改善の推進

### 2 生徒指導、教育相談、特別支援教育の充実

いじめ、暴力行為をはじめとする生徒指導の問題、不登校や虐待等教育相談や特別支援教育の問題等は、「報告・連絡・相談」を徹底しチームで対応する。

#### (1) 生徒指導の充実

生徒指導主任を中心とした指導体制を構築、教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深める。

- ① 生徒一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図る指導の徹底
- ② 学校生活の様々な場面における様々な自己選択や自己決定の場や機会を与え、その過程において、生徒を育てる指導の工夫
- ③ 全教職員の共通理解のもと組織的・計画的な取組の推進
- ④ 生徒理解の深化とともに、教員と生徒との信頼関係を築く実践
- ⑤ 自発的な行動や自主的な行動などの資質を育む指導の充実

- ⑥時と場をわきまえた言葉遣いの指導（教師自身が手本となる）
- ⑦授業規律「授業7ヶ条」の徹底、規律ある態度の育成
- ⑧いじめの早期発見、早期対応
- ⑨社会的なルールやマナーを身に付けるなど社会性を育む指導の充実
- ⑩社会の一員としての自覚と責任の育成
- ⑪基本的生活習慣の確立（早寝、早起き、朝ごはんの励行）

## (2) 教育相談の充実

特別支援教育コーディネーターを中心とした関係機関との連携による支援の充実  
生徒が抱える悩みや不安などに対して、本人又は保護者などへの相談活動を通じて解消を図り、よりよい人格の成長を援助する。カウンセリングマインドに基づく、心のふれあう支援を進める。

- ①日常の相談活動など生徒が相談しやすい雰囲気の醸成
- ②生徒の情報を的確に把握し、教職員と相談員の連携を密にした体制の充実
- ③1・3・0運動の徹底
  - ・特別支援教育の視点に立った支援を要する生徒への指導体制の構築を図る
  - ・不登校生徒への支援体制を強化しその解消を図る（不登校生徒数削減）
- ④教育相談部会の充実と関係機関との連携の推進（再掲）
- ⑤相談室登校生徒の学習支援（第2校時から第5校時まで各教科の授業）
- ⑥不登校生徒の学習支援（ICT機器の積極的な活用、オンライン授業）

## (3) 生徒への適切な支援の充実

「いじめ防止基本方針」に基づき、実態、発達段階に応じた支援体制の充実を図るとともに一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進

- ①個別の支援計画に基づいた長期的な支援の推進
- ②特別支援コーディネーターを中心とし、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、相談員、相談機関との日常的な連携
- ③障がいの特性等に配慮し、効果的な指導内容・方法の工夫・改善
- ④教職員と特別支援教育支援員との連携推進
- ⑤「障害者差別解消法」に基づいた合理的配慮の推進

〔特別支援学級〕

障がいの状況、特性に応じて、指導内容・方法を明確にした特別な教育課程を編成し、きめ細かい指導の充実

〔通常学級〕

一人ひとりに応じた適切な支援の充実、ICT機器等による個別最適化の推進

## (4) 相談室登校生徒、不登校生徒の学習支援（再掲）

- ①パルスステップの積極的な運用
- ②相談室登校生徒の授業の充実
- ③不登校生徒の学習支援（ICT機器の積極的な活用、オンライン授業 再掲）

## 3 進路指導・キャリア教育の充実

- (1) 自己の特性を知り、主体的に進路選択する力の育成

- (2) 2年生の職場体験活動の実施（令和5年度は中止）
- (3) 進路情報の発信と全学年での共有化（進路だよりの発行、HP掲載）

#### 4 特別活動の充実

様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する。

- (1) 学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するため合意形成し、自己の課題の解決及び将来の生き方を描くための意思決定の実践（学級活動）
- (2) 異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るため、計画を立て運営する自主的、実践的な取組の推進（生徒会活動）
- (3) 集団への所属感や連帯感を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う取組の推進（学校行事）
- (4) 二中3大行事（体育祭、合唱祭、三送会）の精選、効率化の推進
- (5) 互いに尊重し、よさを認め合えるような、望ましい人間関係の形成
- (6) 宿泊行事（1・2年生スキー林間、3年生修学旅行）の充実
- (7) 福祉、ボランティア活動の奨励

#### 5 人権教育、情報教育、環境教育の充実

- (1) 全教職員の共通理解の下、教育活動全体を通じた人権教育の推進
- (2) 人権感覚を身に付け、様々な人権課題を解決しようとする生徒の育成
- (3) コンピュータや情報通信ネットワークなどに親しみ、基本操作や情報モラルを身に付ける学習活動の推進
- (4) 情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的・積極的に活用できる学習活動の充実
- (5) 学校・PTA（学校応援団など）・地域と連携した環境教育の推進
- (6) 関連機関などの外部人材や施設を積極的に活用した、環境教育の推進

#### 6 全員参加の学校づくり

- (1) 教育活動の効率化、質の向上の推進（再掲）
- (2) 全教職員が信頼される魅力ある教職員を目指した研修の充実
- (3) 初任者の育成（全職員で協力）
- (4) 教職員一人ひとりが、自らの力を最大限に生かした組織協働態勢の充実

### IV その他

教職員の業務の効率化、健康管理（時間外勤務時間の削減）

- (1) 職員会議・朝の打合せの工夫（週報、日報の活用）による会議時間の短縮  
隔週月曜日学年会 定時修了
- (2) 第二中リフレッシュ休暇の実施（計画年休を前期1日、後期1日、年間2日以上取得、年休年間5日以上取得）
- (3) ふれあいデーの確実な実施
- (4) 部活動の計画的、効率的な運営

(5) ICT機器を積極的に活用し、業務の効率化を推進

業務の効率化（負担軽減）

①自動採点システム

マークによる採点システム（マー君）

記述式の自動採点システム（リアテンダント）

②業務の電子化

- ・体温等の観察カードの電子化
- ・保護者宛て文書の電子化
- ・日報や職員会議資料の電子化
- ・教師間の回覧の電子化
- ・専門委員会のファイルの電子化

③その他

電子化により業務の効率化が図れるものは、積極的に電子化を推進する。

(6) 自動採点システム導入（マークシート、記述）によるミニテスト、定期テストの分析の効率化

◇『チーム第二中』として

**フットワーク・ネットワーク・チームワーク を大切に**